

第二回人工炭酸泉研究会発表の座長要約

平成10年10月23日に行なわれた本会では、10の演題が発表され討論された。水温は34 から41 ,適用時間は3分から20分,使用回数は1回から5回(1題は8ヶ月連続),炭酸水に含まれるCO含有量は500から1000ppm,浴法は部分浴(足浴,前腕浴),乳頭部までの座浴,全身浴,年齢は成人から高齢の男女,被検者数は5名から22名で,演題は血流3,体温・血流3,循環系3,(1題はラットを用いた動物実験),血压・神経1題が発表された。各演題について,その結論を要約する。

1. 炭酸泉足浴による足趾の虚血性障害の治療には,700~1000ppm・34~38 が有効との結果を得た。
2. 炭酸泉浴(1000ppm・35)で,拡張期血压が低下し,末梢血管抵抗が減少して皮膚血流量が増加し,末梢循環機能が向上した。
3. 炭酸最左右前腕部分浴(1000ppm・41 ・10分間)で,血流速度の増加と,保温効果を示した。
4. 炭酸泉浴(1000ppm・34 ・20分・5日間)で,鼓膜温低下,温冷感暖化,皮膚血流増加,浴中血压低下,1回拍出量が増加したが,5日連浴の効果は見られなかった。
5. 炭酸泉浴(1000ppm・41 ・15分間)で,前額部と上腕部の表面皮膚温は高温となり,出浴後も維持するが,左胸部の深部体温は水道水との間に差がなかった。
6. 高齢者の炭酸泉浴(1000ppm・40 ・3分間)を8ヶ月連続使用し,最高血压低下,心拍減少,体温上昇,保温効果は高いが,長期使用による身体への効果は確定できなかった。

7. 2種の炭酸泉(A:1000ppm・35 ,B:600ppm・40)に18分入浴させると,高濃度の炭酸泉浴で心拍数の増加が少なく,1回拍出量が増加した。

8. ラットを川いた炭酸泉浴(700~1000ppm・30-35 ・浸漬時間30分)で,皮膚血管抵抗は30 で減少,皮膚血流増加,心拍数低下はヒトでの交感神経抑制効果に対応した。
9. 炭酸泉(1000ppm・34-35 ・20分間)全身浴で,健常者の浴中の血压下降は若年層にみられ,高血圧症群は平均値でも下降し,両群とも浴中の舌下温度は低下した。足浴では末梢神経伝導速度の改善がみられた。
10. 炭酸泉(1000ppm・35-35 ・15分間)全身浴で,赤血球・リンパ球数増加,部分浴ではリンパ球数増加,片側前膊部分浴で浴側のみでなく,反対側にも温度上昇と静脈拡張を認めた。前立腺肥大症の高温度治療に応用して有効な効果が得られた。

今後の研究会では,

1. 褥瘡や上下肢の虚血性障害など末梢循環機能の改善列
2. リウマチや腰痛症患者に対する効果
3. 高血圧症や脳卒中後遺症患者への効果
4. 糖尿病患者の末梢神経伝導速度の改善列
5. 前立腺肥大症に付する高温度治療への応用
6. 自律神経調節障害患者に対する効果
7. ラットなどを用いた動物実験データなどの症例や治療例が追加され,炭酸泉の更に多くの作用と適応症の解明が期待される。

